



立春の候、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
今月の診療科別予定表を同封いたしますのでご参照ください。  
今後とも、患者さまのご紹介をよろしくお願いいたします。



## リハビリテーション室よりごあいさつ



診療技術部 部長  
リハビリテーション室 技師長  
てづか やすき  
手塚 康貴

いつもお世話になり、ありがとうございます。2011年に社会医療法人生長会とともに、当地にお世話になり10年を越えました。

赴任当時はリハビリスタッフ6名でしたが、現在は、理学療法士18名、作業療法士12名、言語聴覚士8名が在籍する大所帯となりました。豊富なスタッフ数で、一般病棟では、整形外科疾患の術後や人工呼吸器管理患者を中心とした早期リハビリや、がん患者のリハビリ、他疾患治療で生じた廃用症候群のリハビリなどを実施し、回復期リハビリ病棟では、脳卒中や整形外科疾患に対して365日の集中的なリハビリを実践しております。また、必要に応じて、退院後の一定期間の外来リハビリも行っております。

特徴的な取り組みとして、脳神経外科と協働の痙縮に対するボツリヌス療法、呼吸器疾患患者に対する教育入院なども実施しており、これらについては、次項に担当者から詳細を記載いたしますので、参考にさせていただければと思います。また、病院ホームページも参考にさせていただければと思います。（アドレス：裏面紹介）

今後も、当地のニーズに応えられるリハビリテーション室として努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



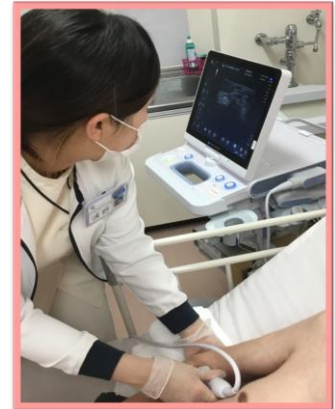
# リハビリテーション室 よりご案内



## 痙縮に対するボツリヌス療法

当院では、脳卒中などにより、筋肉の緊張が高まる痙縮が生じ、手足の運動に支障をきたし、日常生活にも影響が生じている患者さまに対して、入院でのボツリヌス注射とリハビリによる積極的な対応を実施しております。

まず脳神経外科の診察で適応判断し、リハビリスタッフの面談と評価により、治療部位となる筋肉を選定します。ボツリヌス注射はリハビリ併用による効果が報告されているため、注射翌日より約2週間の入院リハビリを実施し、一定期間の外来リハビリを継続します。当院 地域連携室を通じて、脳神経外科にご紹介ください。



【超音波を用いて筋肉を同定】

< 病院HP <https://www.seichokai.or.jp/hannan/> → 右ピックアップ欄より「ボツリヌス治療」>

☆ リハビリテーション室 リーダー 橋本 篤 ☆

## 呼吸教育入院

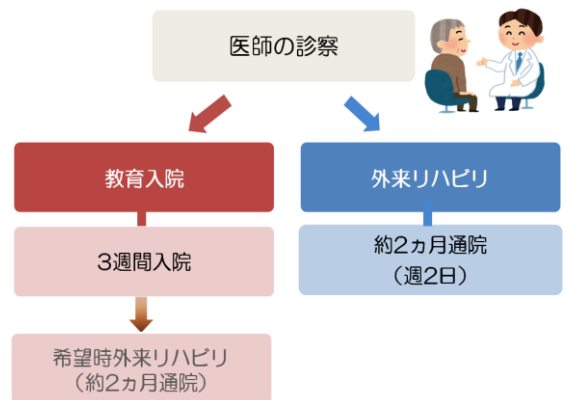
当院では、COPDや間質性肺炎等の患者さまに対して、包括的な呼吸リハビリテーションを実施しており、状態によって3週間の呼吸教育入院も行っております。

呼吸教育入院では、日常生活における呼吸困難感や低酸素、栄養状態を確認し、状態に応じた最適な運動の指導、呼吸困難感が少なくなる日常生活動作の指導、栄養指導、酸素療法指導などを行います。呼吸障害を有する患者さまが望まれる生活を送れるようにチームでサポートしてまいります。

地域連携室を通じて、内科紹介を頂きましたら、本人・家族同意のもと呼吸教育入院の実施を検討いたします。

< 病院HP <https://www.seichokai.or.jp/hannan/> → 「診療科・部門紹介」→ 「リハビリ室」へ >

☆ リハビリテーション室 主任 谷口 真基 ☆



社会医療法人生長会 阪南市民病院 地域連携室

(直通) TEL 072-471-3020 FAX 072-471-3977

受付時間 午前8:45～午後6:00 ※土曜日は午後0:30までとなります

～ 阪南市民病院 基本方針 ～

全人的な医療を通して人々が自分らしく生きることにつながる病院  
「やさしい」「ていねい」「あったかい」医療を提供する

